学校番号	1206

令和８年度　国語科

教科	国語	科目	実践国語Ｂ	単位数	２単位	年次	３年次
使用教科書							
副教材等	「国語常識ベーシック（数研出版）・　１日１０分の言語力ドリル（第一学習社）」						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

これまで養った作文・グループワーク・プレゼンテーション等を通した表現力をさらに高め、国語を適切に表現し理解する能力を育成するとともに、言語感覚を磨き、国語に対する自発的な興味関心を深めるため。

2　学習の到達目標

【知識及び技能】
自分の思いや考えを様々な形で表現するため、漢字・語彙力をさらに豊かにし、論理的な文章力をつける。
【思考力、判断力、表現力等】
自分の主張の合理性が伝わるように、適切な根拠を用い、論理の展開を考えるなどの工夫を行う。
【学びに向かう力、人間性等】
様々な題材に対し、あるいは自分自身で設定した題材に対して自分の思いや考えを論理的に書き、他者に伝える。授業の中で意欲的に発言やグループワークに取り組み、日々の授業にて学習したプリントなどの課題をその時間中に完成させることで、学習内容を理解し、学習習慣の確立をめざすものとする。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a　知識・技能	b　思考・判断・表現	c　主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	自分の思いや考えを様々な形で表現するため、漢字・語彙力をさらに豊かにし、論理的な文章力をつける。	自分の主張の合理性が伝わるように、適切な根拠を用い、論理の展開を考えるなどの工夫を行い、様々な題材に対し、あるいは自分自身で設定した題材に対して自分の思いや考えを論理的に書き、他者に伝える力をつける。	授業に対して意欲的に取り組み、日々の授業にて学習したプリント等の課題をその時間中に完成させることで、学習内容を理解し、学習習慣を確立する態度を養う。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元の学習内容	単元の評価規準	評価方法		
			知(a)	思(b)	主(c)
通年	書くこと、話すことによる国語表現全般に渡る実技 ［教材］ ・国語常識ベーシック ・1日10分言語力ドリル	a:：言葉には、文化の継承、発展、創造を支える働きがあることを理解できる。常用漢字の読みに慣れ、主な常用漢字を書き、慣用表現や適切な言葉を文や文章の中で使うことができる。 b[　読　]:目的や場に応じて、実社会の問題や自分に関わる事柄の中から話題を決め、他者との多様な交流を想定しながら情報を収集、整理して、伝え合う内容を検討できる。 b〔　話/聞　〕目的や場に応じて、実社会の中から適切な話題を決め、様々な観点から情報を収集、整理して、伝える内容を検討できる。自分の思いや考えが伝わるよう、具体例を効果的に配置するなど、話の構成や展開を工夫する。 c:文章の構成や展開を工夫して書こうとしている。	ワーク 小テスト プリント	ワーク プリント 小テスト	参加状況
	原稿用紙の使い方 ［教材］ プリント教材使用 感想文 多岐にわたるテーマにて小論文	a:原稿用紙の正しい使い方が身についている。 b[　書　]:人生や政治経済、国際問題、環境問題など多岐にわたるテーマについての論説を読み、自分の感想を言葉で表現できる。 c:与えられた文章を積極的に読み、それについて考えようとしている。他者の感想を自分の感想と比較し、否定することなく味わい、よりよい小論文を書こうとしている。	ワーク 小テスト プリント	ワーク 作品	参加状況 作品
	ことばと遊ぶ ［教材］ キャッチコピーの創作	a:修辞法である掛詞や体言止めなどの我が国の言語文化に特徴的な表現の技法とその効果が理解できる。 b[　書　]:自分の体験や思いが効果的に伝わるよう、文章の種類、構成、展開や、文体、描写、語句などの表現の仕方を工夫できる。 c:修辞法を取り入れたキャッチコピーを創作しようとしている。	プリント ワーク	作品	参加状況 作品
	手紙の書き方 年賀状や暑中見舞いの書き方 ［教材］ 手紙の書き方講座 プリント教材	a:正しい手紙の正しい書き方を理解し、実践できる。 b[　書　]:見本の中から適切な言葉を知り、自分で考えた文章を使い手紙を完成させることができる。自分の体験や思いが効果的に伝わるよう、文章の種類、構成。展開や、文体、描写、語句などの表現の仕方が工夫できる。 c:自ら進んで手紙の書き方を学び、実践しようとしている。	ワーク 小テスト プリント	作品	参加状況 作品

※表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度

※単元の評価規準ｂ[　]について…括弧内には[　話／聞、書、読　]のどれか一つを記入して下さい。

※年間の各領域時間数

・話すこと／聞くこと　…　（　　１５　　）時間

・書くこと　　…　（　　４０　　）時間

・読むこと　　…　（　　１５　　）時間